

準備会では

今一歩が話し合われています



表紙の頁で紹介しましたように、十二月から四回の代表者会議が行われ、会の名前、目標（スローガン）がまとまりました。また、代表者会議のまとめを受けて、「安心・安全」「生きがい」「賑わい」のグループでは、それぞれ二〜三回ずつの話し合いがもたれています。ここでは、中（グループ）目標や行動計画作りが行われています。

現在、中目標はほぼまとまり、次は行動計画作りに入ります。

しかし、行動計画づくりには、課題がいろいろあります。

その中で、メンバーから盛んに出される意見は主に二つです。

一つ目は、「和田地域づくり協議会」の存在とその目的を、まだまだ町民の多くが知らないのではないか」ということ。

二つめは、「和田の新たな地域づくりを目指して、ある程度の人数が集まったが、このメンバーの思いだけで地域づくりを進めていいのだろうか？ もっと地域の人々のニーズを取り入れる必要があるし、人数も増やす必要があるのではないか」ということです。

そこで、「地域づくり協議会」が正式に発足する前に、二つの課題を幾分たりとも小さくする行動を、各グループを中心に企画し、実行してみようということになりました。下の欄で、その計画を紹介します。



安全・安心

メンバーの思い

地域づくりに取り入れたい

地域の優先課題

住民のニーズ

趣意書 会の目的 アンケートの趣旨

アンケート

- ※ 集計・分析
- ※ 行動計画の作成
- ※ 発信 ⇄ 行動

生きがい

住民は、「協働」という新しい地域づくりの考え方を知っているだろうか？

住民は、「地域づくり協議会」の存在と目的を知っているだろうか？

生涯学習の考えと繋がらないか！

学習講座を開こう 『寺子屋講座』
⇨ 『協働』と『地域づくり協議会』について

賑わい

- ※ どんな賑わいイベントに、人は詰まるのだろうか？
- ※ 自分たちに、賑わいの場をつくり出すことができるだろうか？

将来の拠点に人を集める手がかりを得よう

テーマは！

支所機能の移転
現支所庁舎の取り壊し
⇨ 『さよなら支所庁舎』

簡単な企画や出店等で賑わいを演出しよう

協議会の名称・目標（スローガン）決まる

準備委員会 代表者会議の中で検討されてきました。地域づくり協議会の目標（スローガン）がほぼまとまりました。各グループ会議の中では承認を得ていますが、この後全体会の中で最終決定されます。

会の名前

和田地域づくり協議会
WAO!

これは **W**ada
Active
Organization

の頭文字をとったものです

そしてこれには、

わだ あんとかしねえば
お いねえやだよ

という意味も込められています。



目次ですが

和田住民の平均年齢をご存知ですか？

和田町の21年末の人口は、5353人です。少し資料が古くなりますが、17年の国勢調査の結果では、住民の平均年齢はなんと52.7歳（約53歳）です。つまり当時は、昭和27年生まれの人と和田町住民のちょうど真ん中に位置していたこととなります。そして今、60歳前後の人数が、瓶の胸のように膨らんでいます。

名前や目標は、数少ない三十代の若い会員のアイデアを基に、各グループの代表者達が意見を出し合い、練られたものです。「WAO!」は、「ワオー」と読みます。目標（スローガン）は、会が目指す地域づくりの到達イメージです。

「ワイワイ」とは、和田町が、「内外の人が集い、思いや活動を発信したり交流したりする」、「いろいろな行事や経済活動が工夫展開される元気のある」地域になること。

「温かみのある」とは、「活動を通して、新たな絆や生きがい生まれ」たり、「安心して暮らせる状況が生まれ」たりすること。

そして、多くの人に愛され、誇りを持って次世代に伝えられる「おらが町」を目指します。

ワイワイと温かみのあるおらが町

となりました。

発行者 南房総市・和田の地域づくり協議会準備会
連絡先 南房総市役所和田支所内
地域づくり支援員 田島和幸 川上香織
携帯 080-4188-7103
支所 0470-47-3111
FAX 0470-4704181 (支所)



『和田 あんとかしねえばおいねえやだよ!』を統計から見えました

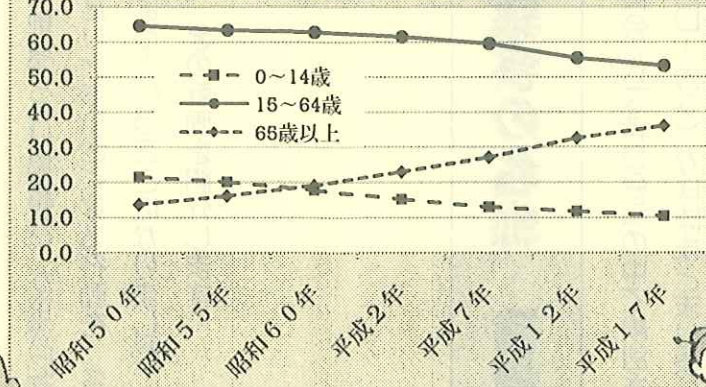
町の人口構成

昭和50年の農家総数は836戸、その内専業は218戸、兼業は618戸です。それが、平成17年では総数339戸、専業101戸、兼業238戸です。30年間で、専業が半数以下、兼業が1/3近くに減っています。

また、水稲耕作面積は349ha から161haへ、収穫量は1420tから752tへとそれぞれ約1/2に減少しています。水稲耕作面積や収穫量の半減は、減反調整の影響ともいえますが、最近目に付く耕作放棄地は、水田ばかりでなく畑にも及んでいます。

農家数・農業従事者の減少が、農村景観の変化にもなって表れています。

和田町の年齢層別人口割合の移り変わり



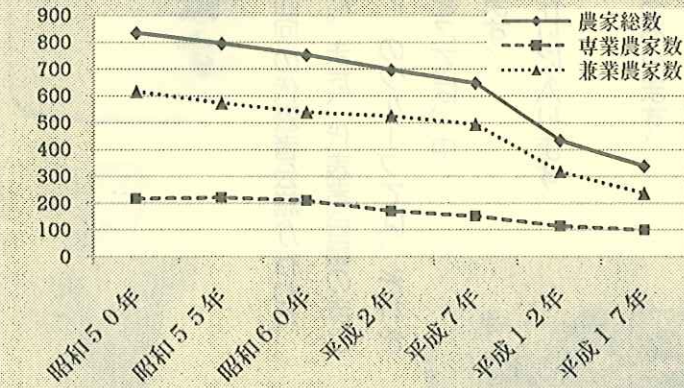
国勢調査では、昭和50年の和田町の人口は7291人、平成17年は5495人でした。人口は年々減り続け、30年間で2000人弱の減少です。

割合で見ると、0~64歳までの比率が小さくなり続け、65歳以上の比率が大きくなり続けています。特に、平成に入ってからその割合が増し、平成17年では、65歳以上の人口全体に占める割合が、36%を超えました。つまり、和田町の住民の1/3以上が、65歳以上というわけです。

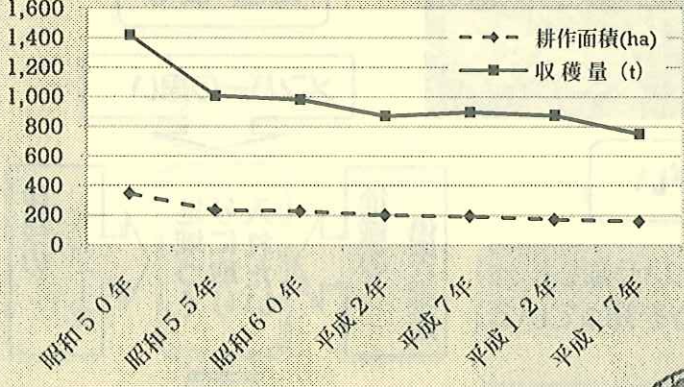
これらの状況からすると、平成22年の国勢調査では、65歳以上の方の割合は40%前後になることが予想されます。

農業

和田町の農家数の移り変わり



和田町の水稲耕作面積及び収穫量の移り変わり



どのグラフを見ても、和田町の産業の“右肩下がり”の傾向が見てとれます。この先も、和田町では青壮年の働く場所が、ますます減少していきたくらうと予想できます。そしてこのままでは、若年層の流出 → 高齢化、経済活動の低下 → 活性の消失と、悪循環はとめどなく続くこととなります。

景気の低迷する現在、40歳代以下が暮らしや子育てに懸命になる中、50歳代以上が隠居然として過ごす時代ではありません。前頁でも書きましたが、和田町の平均年齢は約54歳。和田町という“人も自然も温かい素晴らしい地域”を、次の世代に確かに伝えるために、60歳代以上の方々もまだまだ一頑張り・二頑張りしていかなければなりません。

しかし、劇的な変化は望むべくもありません。また、「どこもが、東京になろう」とする時代は終わったと考えます。一人ひとりが「和田町の良さ」に気付き守り、内外に発信したり小さな経済活動に結び付けたりしていく。そこが出发点だと考えます。

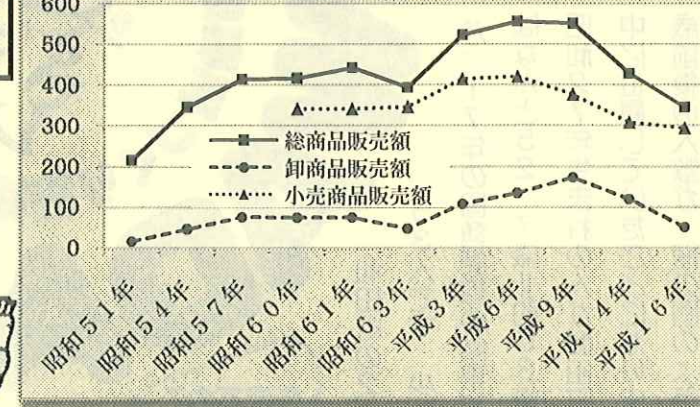
これから生まれる『和田地域づくり協議会 WAO!』は、「年齢層を超え、地域を超えて『和田をあんとかしねえばおいねえやだよ』という思いを持つ人達の力を集め、自分達の出来ることから一つ一つの小さな活動を積み重ねていこう」と、考え行動するグループです。多くの方々の参加をお待ちしています。

和田町の店舗（事業所）数の移り変わり



※昭51,54の小売店舗集計数はなし

和田町の商業販売額の移り変わり



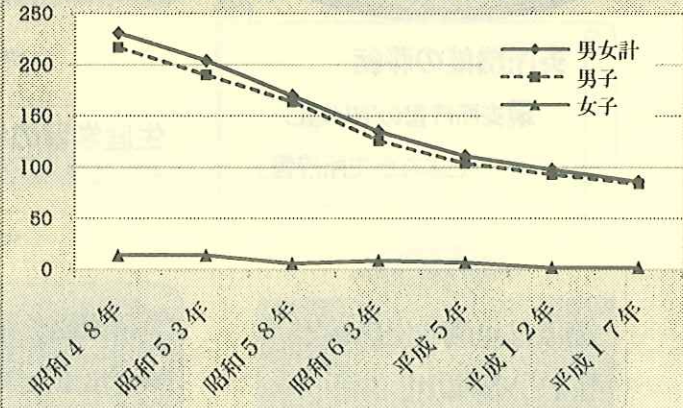
漁業

漁業従事者は、昭和48年が231人、平成17年が86人です。したがって、漁業従事者は30年間で約1/3に減少したことになります。

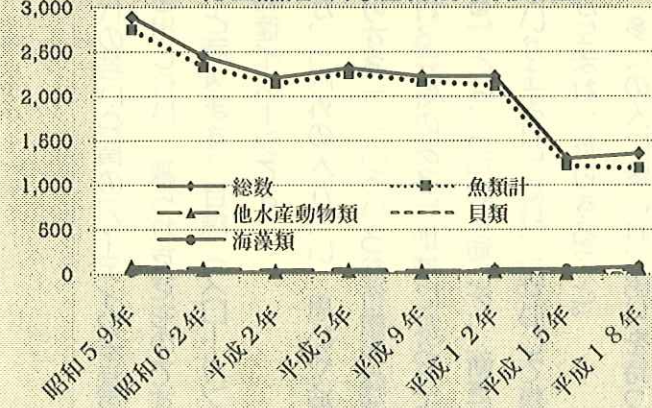
漁業は、年により好不漁の波があります。しがし、水揚量の減少は確実に読み取れます。また、グラフには表れていない昭和58年には6000tを上回っていた水揚量が59年に半減し、平成18年には1400tと、更に半減しています。

産業に関するグラフの右肩下がりが、農、水、商の中で漁業が一番大きく表れています。

和田町の漁業従事者数の移り変わり



和田漁港の海産物別水揚げ量



商業

昭和51年の商業店舗総数は165軒、平成16年は109軒です。その内、卸売店舗数にはほとんど変化はありません。減っているのは小売店舗数です。ちなみにそれは、60年の133店舗から97店舗へと36店舗の減少です。

販売額は、平成に入り一旦増加しますが、平成9年を境にして急激に下降していきます。これは、小売店舗の減少に拍車がかかった年と一致します。

量販店の進出が影響していると考えられます。